

基本情報

科目名	養護実習（事前事後指導を含む）
時間割コード	0239000301
ナンバリングコード	
開講所属	看護福祉学部社会福祉学科
ターム・学期	2025年度 第1学期
曜限	他
開講区分	通年
単位数	5.0
学年	4
主担当教員	柴田 恵子
科目区分	卒業要件外の科目 要件外
必選区分	選択

担当教員情報

教員名
柴田 恵子、古江 佳織、古城 玲子、水間 宗幸、未定、國木 孝治、日比 眞一、定方 太希、松崎 美枝、寺本 奈津樹、森江 一史

詳細情報

授業の目的・到達目標	保健室のあり方及び養護教諭の果たすべき役割と「養護」の対象である児童生徒の心身、生活の状況、健康問題について実習校の実態に基づいて述べることができる。 保健室に来室する児童生徒に対応する中で、健康問題の発見・把握、健康問題の解決、予防のための指導などを適切に行うことができる。 自らが養護教諭になった時の姿（養護教諭像）を描くことができる。 養護実習をとおして、「こころ」豊かな人間性を培い、生涯に亘って専門性を追求し自己研鑽に努める能力の必要性を確認する。
履修上の注意事項	・実習に当たっては1単位の事前事後指導を受けること（養護教諭に必要な資質として救急処置の演習を含む） ・履修に当たっては教職課程履修細則が適用されるのでよく確認をすること ・実習生としての自覚（整容等を含む）と言動で臨むこと ・実習へ向けて、積極的な準備及び十分な取り組みをすること ・事前準備、事後の復習については担当者の指示に従うこと。 ・実習校の計画に基づき実習を行なうこと ・実習の事前学習を行うこと（学校組織、子どもの発育・発達、養護活動など）また、実習後には振り返りレポートを書くこと。事前事後学修に要する時間は各2コマである。 ・授業ではアクティブラーニングを活用し展開する。 ・事前事後学修に要する時間は各2時間である。授業ではアクティブラーニングを活用し展開する。
評価方法	実習校における評価（70％）、実習録・実習終了レポートによる評価（10％）、事前事後指導における平常の評価（態度、意欲、授業参加等）、事前事後指導におけるレポートによる評価（20％） なお、事前事後指導、本実習のすべてにおいて、無断欠席は認められない。
テキスト	実習要項、養護実習の手引き及び資料を配付する。
参考文献	適宜紹介する。
実務経験のある教員による授業の有無	有
実務経験・実務経験を活かした教育内容	日比：福祉科教諭として高校の勤務経験、國木：中学校及び高等学校の勤務経験、松崎：公立学校の養護教諭としての勤務経験、寺本：県立高等学校に教諭として勤務経験、古江：看護師として病院に勤務経験、柴田：養護教諭として小中高校に勤務経験、森江：小学校教諭、指導主事、学校管理職及び教育センター所長としての勤務経験。
アクティブ・ラーニング及びICTを取り入れた授業の実施	電子黒板や授業支援アプリを利用して模擬授業の指導を行なう。 また模擬授業では、グループ内で協議し互いの実施計画から実施、評価を行って自主的な取り組みを行なう。

授業計画

授業計画

1. 事前指導（3年次～4年次実習前）

養護実習の意義・心得、実習の内容や過程の理解、教育現場の事前理解、指導案の作成、実習に必要な知識・技術・技能の獲得、及び実習校の確定とその手続き、実習校との打ち合わせにかかわる実際の指導

2. 養護実習（4年次、15日間）

実習校の指導のもとで実習を行う

3. 事後指導（4年次、実習後）

実習に関する反省と指導―体験内容の相互共有により実習経験の充実・深化をはかる。また終了レポートの作成、自己評価、体験発表、討論会等を行う。

* なお、事前事後指導については、別途指導計画表を配布する。とくに3年次は専門の実習の関係で、事前指導の日程は、変則的に組まれるので注意すること。初回のガイダンスで詳細に説明する。事前事後学修に必要な時間は各2コマで、各自、計画的に学習すること。

No.	内容（担当）	事前・事後学修	備考
該当するデータはありません			

基本情報

科目名	教育実習（事前事後指導を含む）
時間割コード	0239000201
ナンバリングコード	
開講所属	看護福祉学部社会福祉学科
ターム・学期	2025年度 第1学期
曜限	他
開講区分	通年
単位数	3.0
学年	4
主担当教員	柴田 恵子
科目区分	卒業要件外の科目 要件外
必選区分	選択

担当教員情報

教員名
柴田 恵子、古江 佳織、古城 玲子、水間 宗幸、未定、國木 孝治、日比 眞一、定方 太希、松崎 美枝、寺本 奈津樹、森江 一史

詳細情報

授業の目的・到達目標	1．本学における教職課程で学んだ理論をもとに、学校現場における教育の実践的経験を通して、高校教諭に必要な資質や専門性、実践的指導力をもつことができる。 2．教育実習をとおして、「こころ」豊かな人間性を培い、生涯に亘って専門性を追求し自己研鑽に努める能力の必要性を確認する。
履修上の注意事項	・高校教諭1種免許状の取得希望者のみ。履修に当たっては教職課程履修細則が適用されるので、よく確認すること。 ・実習生としての自覚（整容等を含む）と言動で臨むこと ・実習へ向けて、積極的な準備及び十分な取り組みをすること ・事前準備、事後の復習については担当者の指示に従うこと。 ・事前事後学修に要する時間は各2時間である。授業ではアクティブラーニングを活用し展開する。
評価方法	実習校における評価（70％）、実習録・実習終了レポートによる評価（10％）、事前事後指導における平常の評価（態度、意欲、授業参加等）、事前事後指導におけるレポートによる評価（20％） なお、事前事後指導、本実習のすべてにおいて、無断欠席は認められない。
テキスト	実習要項及び資料を配付する。
参考文献	適宜紹介する。
実務経験のある教員による授業の有無	有
実務経験・実務経験を活かした教育内容	日比：福祉科教諭として高校の勤務経験、國木：中学校及び高等学校の勤務経験、松崎：公立学校の養護教諭としての勤務経験、寺本：県立高等学校に教諭として勤務経験、古江：看護師として病院に勤務経験、柴田：養護教諭として小中高校に勤務経験、森江：小学校教諭、指導主事、学校管理職及び教育センター所長としての勤務経験。
アクティブ・ラーニング及びICTを取り入れた授業の実施	電子黒板や授業支援アプリを利用して模擬授業の指導を行なう。 また模擬授業では、グループ内で協議し互いの実施計画から実施、評価を行って自主的な取り組みを行なう。

授業計画

授業計画

1. 事前指導（3年次～4年次実習前）

教育実習の意義・心得、実習の内容や過程の理解、教育現場の事前理解、指導案の作成、実習に必要な知識・技術・技能の獲得、及び実習校の確定とその手続き、実習校との打ち合わせにかかわる実際の指導

2. 教育実習（4年次、2週間）

実習校の指導のもとで実習を行う

3. 事後指導（4年次、実習後）

実習に関する反省と指導―体験内容の相互共有により実習経験の充実・深化をはかる。また終了レポートの作成、自己評価、体験発表、討論会等を行う。

* なお、事前事後指導については、別途指導計画表を配布する。とくに3年次は専門の実習の関係で、事前指導の日程は、変則的に組まれるので注意すること。初回のガイダンスで詳細に説明する。事前事後学修に必要な時間は各2コマで、各自、計画的に学習すること。

No.	内容（担当）	事前・事後学修	備考
該当するデータはありません			

基本情報

科目名	教職実践演習（養護教諭）
時間割コード	0239000501
ナンバリングコード	
開講所属	看護福祉学部社会福祉学科
ターム・学期	2025年度 第2学期
曜限	他
開講区分	第2学期
単位数	2.0
学年	4
主担当教員	柴田 恵子
科目区分	卒業要件外の科目 要件外
必選区分	選択

担当教員情報

教員名
柴田 恵子、古江 佳織、古城 玲子、水間 宗幸、未定、國木 孝治、日比 眞一、定方 太希、松崎 美枝、寺本 奈津樹、森江 一史

詳細情報

授業の目的・到達目標	本科目では、これまでの教職課程の学修を振り返りながら、個人やグループでの探究活動を通じて、主に次の4つの事項に関する知識・技能を修得すること、あわせて教職課程の履修内容を統合することで確かな実践的指導力を身につけることを目標とする。 使命感や責任感、教育的愛情等に関する事項 社会性や対人関係能力に関する事項 幼児児童生徒理解や学級経営等に関する事項 教科・保育内容等の指導力に関する事項 本科目を履修することで「こころ」豊かな人間性を培い、生涯に亘って専門性を追求し自己研鑽に努める能力の必要性を確認する。上記4つの事項に関する知識・技能を修得して実践が行えるようになる。
履修上の注意事項	・実習生としての自覚（整容等を含む）と言動で臨むこと ・実習へ向けて、積極的な準備及び十分な取り組みをすること ・事前準備、事後の復習に関しては担当者の指示に従うこと。 ・授業後は、行った演習を振り返り記録しポートフォリオを作成すること。 ・事前・事後学習に要する時間は各2時間である。授業においてはこれまでの学習経験を活かしたグループワーク、討議、発表を行う（アクティブラーニング）。
評価方法	各テーマに関するレポート（60%）、グループ・ディスカッションへの参加（30%）、履修カルテ（10%）
テキスト	新しく購入するものは特になし。これまで使った教科書や資料を利用する。
参考文献	随時、紹介する。
実務経験のある教員による授業の有無	有
実務経験・実務経験を活かした教育内容	日比：福祉科教諭として高校の勤務経験、國木：中学校及び高等学校の勤務経験、松崎：県立高等学校の養護教諭としての勤務経験、寺本：県立高等学校に教諭として勤務経験、古江：看護師として病院に勤務経験、柴田：養護教諭として小中高校に勤務経験、森江：小学校教諭、指導主事、学校管理職及び教育センター所長としての勤務経験。
アクティブ・ラーニング及びICTを取り入れた授業の実施	・これまでの教職に関する科目・養護に関する科目の履修状況や養護実習での振り返りを基に、自己の課題を見つけ - 課題解決のための目標設定、解決方法の選択、そして課題解決して行くというプロセスを個人及びグループで行なっていく。 ・キャンパススクアに履修カルテとして蓄積された情報を活用したり、ポートフォリオ作成もweb保管する。 - また、グループワークや模擬授業では電子黒板やロイロノートを活用する。

授業計画

授業計画
本科目は免許状の授与を受けようとする者の「教科に関する科目」及び「教職に関する科目」の履修状況を踏まえ、教員として必要な知識技能を修得したことを確認するものとして位置づけられており、それを踏まえた授業内容を計画している。そのため、履修においては教員免許状を授与するうえで、必要な知識技能があるかを常に振り返り、自身の課題を明らかにする。

授業計画

本科目は免許状の授与を受けようとする者の「教科に関する科目」及び「教職に関する科目」の履修状況を踏まえ、教員として必要な知識技能を修得したことを確認するものとして位置づけられており、それを踏まえた授業内容を計画している。そのため、履修においては教員免許状を授与するうえで、必要な知識技能があるかを常に振り返り、自身の課題を明らかにする。

No.	内容（担当）	事前・事後学修	備考
1	オリエンテーション：教職実践演習の位置づけ、履修カルテ	教職履修カルテの記入を進める。実習に関する記録をファイリングして持参する。	
2	外部講師による講話（１）	学習した内容を記録する。課題を明らかにする。	
3	グループワーク（１）：テーマに関する探究活動	自らの学習記録やグループ・ディスカッションを通じて、テーマ理解を深め、レポートを作成する。	
4	外部講師による講話（２）	学習した内容を記録する。課題を明らかにする。	
5	グループワーク（２）：テーマに関する探究活動	自らの学習記録やグループ・ディスカッションを通じて、テーマ理解を深め、レポートを作成する。	
6	外部講師による講話（３）	学習した内容を記録する。課題を明らかにする。	
7	グループワーク（３）：テーマに関する探究活動	自らの学習記録やグループ・ディスカッションを通じて、テーマ理解を深め、レポートを作成する。	
8	フィードバック：これまでの内容の振り返り	これまでの学習内容やテーマに関する探究活動を振り返り、自身の課題を明らかにする。履修カルテの記入を進める。	
9	外部講師による講話（４）	学習した内容を記録する。課題を明らかにする。	
10	グループワーク（４）：テーマに関する探究活動	自らの学習記録やグループ・ディスカッションを通じて、テーマ理解を深め、レポートを作成する。	
11	外部講師による講話（５）	学習した内容を記録する。課題を明らかにする。	
12	グループワーク（５）：テーマに関する探究活動	自らの学習記録やグループ・ディスカッションを通じて、テーマ理解を深め、レポートを作成する。	
13	外部講師による講話（６）	学習した内容を記録する。課題を明らかにする。	
14	グループワーク（６）：テーマに関する探究活動	自らの学習記録やグループ・ディスカッションを通じて、テーマ理解を深め、レポートを作成する。	
15	総括：全体の振り返り	教員としての知識・技能を確認し、今後の課題を明らかにする。	

基本情報

科目名	教職実践演習（高）
時間割コード	0239000401
ナンバリングコード	
開講所属	看護福祉学部社会福祉学科
ターム・学期	2025年度 第2学期
曜限	他
開講区分	第2学期
単位数	2.0
学年	4
主担当教員	柴田 恵子
科目区分	卒業要件外の科目 要件外
必選区分	選択

担当教員情報

教員名
柴田 恵子、古江 佳織、古城 玲子、水間 宗幸、未定、國木 孝治、日比 眞一、定方 太希、松崎 美枝、寺本 奈津樹、森江 一史

詳細情報

授業の目的・到達目標	本科目では、これまでの教職課程の学修を振り返りながら、個人やグループでの探究活動を通じて、主に次の4つの事項に関する知識・技能を修得すること、あわせて教職課程の履修内容を統合することで確かな実践的指導力を身につけることを目標とする。 使命感や責任感、教育的愛情等に関する事項 社会性や対人関係能力に関する事項 幼児児童生徒理解や学級経営等に関する事項 教科・保育内容等の指導力に関する事項 本科目を履修することで「こころ」豊かな人間性を培い、生涯に亘って専門性を追求し自己研鑽に努める能力の必要性を確認する。上記4つの事項に関する知識・技能を修得して実践が行えるようになる。
履修上の注意事項	・実習生としての自覚（整容等を含む）と言動で臨むこと ・実習へ向けて、積極的な準備及び十分な取り組みをすること ・事前準備、事後の復習に関しては担当者の指示に従うこと。 ・授業後は、行った演習を振り返り記録しポートフォリオを作成すること。 ・事前・事後学習に要する時間は各2時間である。授業においてはこれまでの学習経験を活かしたグループワーク、討議、発表を行う（アクティブラーニング）。
評価方法	各テーマに関するレポート（60%）、グループ・ディスカッションへの参加（30%）、履修カルテ（10%）
テキスト	新しく購入するものは特になし。これまで使った教科書や資料を利用する。
参考文献	随時、紹介する。
実務経験のある教員による授業の有無	有
実務経験・実務経験を活かした教育内容	日比：福祉科教諭として高校の勤務経験、國木：中学校及び高等学校の勤務経験、松崎：県立高等学校の養護教諭としての勤務経験、寺本：県立高等学校に教諭として勤務経験、古江：看護師として病院に勤務経験、柴田：養護教諭として小中高校に勤務経験、森江：小学校教諭、指導主事、学校管理職及び教育センター所長としての勤務経験。
アクティブ・ラーニング及びICTを取り入れた授業の実施	・これまでの教職に関する科目・教科に関する科目の履修状況や教育実習での振り返りを基に、自己の課題を見つけ課題解決のための目標設定、解決方法の選択、そして課題解決して行くというプロセスを自らで行なっていく。 ・キャンパススクアに履修カルテとして蓄積された情報を活用したり、ポートフォリオ作成もweb保管する。 また、グループワークや模擬授業では電子黒板やロイロノートを活用する。

授業計画

授業計画
本科目は免許状の授与を受けようとする者の「教科に関する科目」及び「教職に関する科目」の履修状況を踏まえ、教員として必要な知識技能を修得したことを確認するものとして位置づけられており、それを踏まえた授業内容を計画している。そのため、履修においては教員免許状を授与するうえで、必要な知識技能があるかを常に振り返り、自身の課題を明らかにする。

No.	内容（担当）	事前・事後学修	備考
-----	--------	---------	----

授業計画

本科目は免許状の授与を受けようとする者の「教科に関する科目」及び「教職に関する科目」の履修状況を踏まえ、教員として必要な知識技能を修得したことを確認するものとして位置づけられており、それを踏まえた授業内容を計画している。そのため、履修においては教員免許状を授与するうえで、必要な知識技能があるかを常に振り返り、自身の課題を明らかにする。

No.	内容（担当）	事前・事後学修	備考
1	オリエンテーション：教職実践演習の位置づけ、履修カルテ	教職履修カルテの記入を進める。実習に関する記録をファイリングして持参する。	
2	外部講師による講話（１）	学習した内容を記録する。課題を明らかにする。	
3	グループワーク（１）：テーマに関する探究活動	自らの学習記録やグループ・ディスカッションを通じて、テーマ理解を深め、レポートを作成する。	
4	外部講師による講話（２）	学習した内容を記録する。課題を明らかにする。	
5	グループワーク（２）：テーマに関する探究活動	自らの学習記録やグループ・ディスカッションを通じて、テーマ理解を深め、レポートを作成する。	
6	外部講師による講話（３）	学習した内容を記録する。課題を明らかにする。	
7	グループワーク（３）：テーマに関する探究活動	自らの学習記録やグループ・ディスカッションを通じて、テーマ理解を深め、レポートを作成する。	
8	フィードバック：これまでの内容の振り返り	これまでの学習内容やテーマに関する探究活動を振り返り、自身の課題を明らかにする。履修カルテの記入を進める。	
9	外部講師による講話（４）	学習した内容を記録する。課題を明らかにする。	
10	グループワーク（４）：テーマに関する探究活動	自らの学習記録やグループ・ディスカッションを通じて、テーマ理解を深め、レポートを作成する。	
11	外部講師による講話（５）	学習した内容を記録する。課題を明らかにする。	
12	グループワーク（５）：テーマに関する探究活動	自らの学習記録やグループ・ディスカッションを通じて、テーマ理解を深め、レポートを作成する。	
13	外部講師による講話（６）	学習した内容を記録する。課題を明らかにする。	
14	グループワーク（６）：テーマに関する探究活動	自らの学習記録やグループ・ディスカッションを通じて、テーマ理解を深め、レポートを作成する。	
15	総括：全体の振り返り	教員としての知識・技能を確認し、今後の課題を明らかにする。	